渡辺幸裕（案内人）◆文
text by Yukihiro Watanabe
寺尾 豊◆写真
photographs by Yutaka Terao

［新連載］

日本かぶれ

やまと

真の国際化とは自分の国を知ること――。

海外の方から日本に関して質問を受け、〝言葉の問題〟ではなく答えに窮してしまう。そんな惨めな経験はありませんか？ 実は、自国の文化や伝統といった話題こそ、コミュニケーションを深め、ひいてはビジネスを円滑にしてくれる格好の糸口なのです。

新連載「日本（やまと）かぶれ」は日本を探ります。

歌舞伎や能、文楽といった古典芸能だけではなく、日本の伝統的な衣・食・住や年中行事、京都・鎌倉といった土地から神社やお寺まで、言ってみれば日本の生活文化全般をもう一度学び直してみたいと思います。

そのジャンルに詳しい人には「何を今さら」といった内容も出てきます。でも、大切なのは基本を学ぶという姿勢です。そして、それを生活の中に取り入れるという実践です。ビジネスの分野でも結果を残している人は必ず基本を重視し、実践によって応用力を高めています。これと同じスタンスで、一緒に「日本のプロフェッショナル」を目指しましょう。

日本を知り、世界と交わる――。

眉間にしわを寄せず、肩に力を入れず、気楽に気軽に、日本文化の初心者がその道の達人にお話を伺い、「ああ、そうだったのか」と膝を打つ。そんな内容にしたいと思います。もっと調べたい、深めたいという方のための情報もできるだけ盛り込み、皆様の「日本（やまと）かぶれ」を応援します。真の国際人を目指す、そして潤いのある生活を望むアソシエ読者とともに、日本を知り、日本を楽しむ旅に出発しましょう。

案内人　渡辺幸裕
アソシエ 日本かぶれ取材班

Yukihiro Watanabe
渡辺幸裕（わたなべ・ゆきひろ）
ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。74年早稲田大学政経学部卒業後、サントリー入社。宣伝部で、ある海外イベントを担当した時、自国の文化についての知識のなさを痛感、2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者の会“和・倶楽部”を提唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

連載第一回

初めての着物を選ぶ 日本人らしく装う

「日本」をまとう

最近、男の着物がちょっと話題になっている。実際に着た人は「着物を着ると自分が変わる」「他人との関係が良くなった」と言う。

実は私もたまに着物でパーティーに出かけたりするが、本当にモテるのだ。次回に触れるが、海外出張で着物を着て大変得したという話まで聞くようになった。

装いが変わるだけで、自分も相手もこんなに変わるかと思うくらい、着物を着ると状況は変わる。女性が着物、男がスーツという素敵なカップルは多いが、男女で着物、夫婦で着物、という方はまだ少ない。でもその格好よい姿を想像してほしい。アソシエの読者なら正式なビジネスシーンで、着物を着て取引先に印象づけることも夢ではあるまい。

いささか旧聞に属するが、日韓同時開催ワールドカップの組み合わせ抽選会が韓国で行われた時、韓国サッカー協会の会長は朝鮮の民族衣装で、一方、我が日本の岡野俊一郎会長（当時）は背広姿だった。全世界に向けて日本を見せるチャンスにこそ着物を――とはならずに私は寂しさを感じた。

そうは言っても私たちの生活の中から着物が消えて久しい。全く新しい物としてつき合わねばならない。そこで連載第1回は「初めての着物を選ぶ」、次回は「着物を着て出かける」と2回にわたって"超初心者のための着物入門"を学ぶ。

着物選びは、呉服屋選び

以前の私を含め、着物を全く知らない入門者にとって初めて着物を買うという行為は不安と緊張でいっぱいだ。着物は決して安くないし、呉服屋に入ったはいいが、着物にはどんな種類があるのか、高い着物を買わされないか…と不安に思うのは当然である。

かといって通販で買うのはさらに難しいだろう。古着や安い着物には色、柄、品質などがオフィシャルな用途に向かない物もある。そこで銀座もとじ社長の泉二弘明（もとじこうめい）氏に、疑問をぶつけてみた。

そこで分かったこと、それは「着物選びは呉服屋選び」とも言えるということだ。まず、初心者が初めて着物を選ぶ時に親身になって

着物の買い物はゆっくりでよい

一

呉服屋に遠慮はいらない。柄や素材で疑問に思ったこと、用途や手入れ方法、予算に至るまで、聞きたいことは何でも聞く。料金は反物の値段ではなく「仕立て上がり」がいくらなのか確認する。話しながら呉服屋を吟味するのも大事だ。

二

反物だけでは着物になった時のイメージがわかない。このように洋服の上からクルクルと巻きつけて着物状にしてもらえないか、呉服屋に頼んでみる。

三

すると不思議、なるほどこういう感じになるのかと分かる。高価な一生ものだけに、自分で納得してから生地を決めよう。

日本の色　江戸茶：江戸庶民文化の「無地染（草木の根、花、葉などで布地を染める手法）」でも人気があった色。今後も1色ずつ、日本の色を紹介していきます。

揃えたい小物

草履：「雪駄」より、「草履」の方が初心者向き。素材は牛革や馬毛より、エナメル製がおしゃれ用から礼装まで幅広く使える。初心者用には2万～3万円をお薦めする。

足袋：着物の場合、足元が露出し足袋は目立つ。おしゃれに見せるには着物と同系色が無難。色足袋の場合、3000～4000円強。

羽織紐：羽織紐を変えると装いや表情も変わる。気分やTPOに合わせネクタイ感覚で選ぶ。長年使えるものだけに良い物を選びたい。玉つき、房つき、房なし、いろいろあるが1万弱～2万5000円程度。

手拭い：汗拭き、ナプキン代わり、懐に入れて着くずれ防止など用途は様々。500～1000円で手に入る。

［指南役］

銀座もとじ社長　泉二弘明氏（86ページ写真中央）

男性用着物で有名だが、女性の織の着物専門店「和織」や染め専門店「和染」を開店。伝統的な呉服業界で「新しい時代の、新しいきもの店」を標榜し、顧客側に立ったビジネスを展開中。

「日本かぶれ」連載開始を記念し、女性用着物と帯の2点を21万5000円、男性用の着物と羽織の2点を19万8000円で販売中（各約3割引き）。仕立て上がり価格。各10組限定。詳細は銀座もとじまで。

住所／東京都中央区銀座4-8-12
電話／03-5524-7472
http://www.motoji.co.jp

長く着られる「本物」を買う

帯：14万5000円
名古屋帯。更紗柄
（値段は仕立て上がり価格）

着物：16万5000円
長井紬、生成格子
（値段は仕立て上がり価格）

帯揚げ：1万8900円

帯締め：1万2000円

女物総額
金390,750円也
総額は長襦袢の値段込み

女性コーディネート一例
細かな格子柄の紬は、帯や小物でいろいろな表情が演出でき、楽しめる一枚。左は更紗柄の染め帯を合わせた、かわいい組み合わせだ。帯揚げは着物に合わせてさりげなく、帯締めの色をアクセントに。

羽織紐：1万5750円
玉つき

角帯：3万9000円
博多織（グレー）

着物：12万円
大島無地
（値段は仕立て上がり価格）

羽織：16万8000円
大島、みじん格子
（値段は仕立て上がり価格）

男物総額
金388,900円也
総額は長襦袢の値段込み

男性コーディネート一例
ベーシックで上品な無地の大島紬に、同じ大島のみじん格子の羽織を合わせておしゃれさを出した。カジュアルなジャケットを羽織る感覚で着られる。角帯は男の着物の定番、博多織で。羽織紐は小さめの玉つきが人気。

相談に乗ってくれる呉服屋を選ぶ。ここまで来れば第1関門は突破である。

着物を買う際は、予算、用途、今後どのように種類を揃えていきたいかを考え、呉服屋にきちんと伝えるのが大変重要である。そのほか、クリーニングの仕方、畳み方、しまい方と、聞きたいことも山ほどある。洋服にネクタイやベルト、カフスがあるように、着物にも羽織、帯、羽織紐、足袋など、必要な小物があるし、その中には知らない言葉もたくさんある。

そんな時に頼りになるのが呉服屋だ。TPOや季節に合わせた着方など、信頼できる呉服屋に相談するのが一番である。

1回買ったら一生もの

祖父母や親の着物が着られるように、着物は手入れさえよければかなり長く持ち、体形が変わっても洋服より対応が容易だ。そう考えると長年着られるだけに割安である。アソシエ読者には最初から正統派の着物をしっかり選んでもらい、きちんと手入れをして、大事に着続けてほしい。

さらに深める参考情報…

【書籍】
『男の着物人生、始めませんか』（泉二弘明著、リヨン社）
『男のきもの雑学ノート』（塙ちと著、ダイヤモンド社）
『男、はじめて和服を着る』（早坂伊織著、光文社新書）

【ウェブサイト】
男のきもの大全
http://www.kimono-taizen.com/
京都工芸染匠協同組合
http://www.sensho.or.jp/
男のきもの指南　http://kimonoo.net/
民族衣裳文化普及協会
http://www.kimono.or.jp/
きもの美術館
http://www.suzunoya.com/museum/
日本染織工芸愛好会
http://www2s.biglobe.ne.jp/~sakamaki/index.html
文化学園服飾博物館
http://www.bunka.ac.jp/museum/hakubutsu.htm
日本の着物
http://www4.ocn.ne.jp/~isyo/
有料情報検索サイト ジャパンナレッジ
http://www.japanknowledge.com/

［告知］

日本かぶれの会
超初心者版、着物体験講座

新連載「日本かぶれ」では記事の内容を体験できるイベントを行います。初回は、着物に関する「よろず質問会」&「帯の締め方講座」です。男性参加者には「角帯の締め方」を、女性には「名古屋帯の締め方」をマスターしていただけます。

日時：10月18日（月）19：00〜21：00
会場：銀座もとじ　ぎゃらりー泉
募集人数：10人
参加実費：3000円（講師代など含む）
締め切り：10月1日（金）
応募方法：https://bpcgi.nikkeibp.co.jp/nba-cgi-bin/nba_asocie.cgi?mode=route2で必要事項をご記入ください。参加が決まった方に詳細をご連絡します。
問い合わせ先：info-nba@nikkeibp.co.jp

今後も各テーマに沿ったイベントを企画します。記事のみならず、実体験の場へもご案内します。どうぞお楽しみに。

※84ページ写真
撮影協力／ワインバー カノン 03-3404-1119